

令和3年7月25日

松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）

令和5年度～令和14年度

（2023年度～2032年度）

常設展示「深鉢形土器 貝の花貝塚」

目次

第1章 リニューアル基本構想・基本計画の背景

1. 松戸市立博物館設置の目的・基本的性格……2
2. 松戸市の歴史的・文化的特徴……4
3. 松戸市立博物館の現状と課題……5
4. 国・世界の動向……9

第2章 リニューアル基本構想・基本計画の策定方針

1. 策定の経緯……11
2. 策定の方針……13
3. 策定の体制……14
4. 上位計画と計画期間……15
5. 評価……16

第3章 リニューアル基本構想(使命と事業目標)

1. 使命／ミッション……18
2. 5つの事業目標……19

第4章 リニューアル基本計画(方針と取組)

1. 事業目標1 広域的な文化交流拠点の形成…24
2. 事業目標2 松戸ブランドの価値創出……28
3. 事業目標3 新しいファン層の獲得……30
4. 事業目標4 施設の長寿命化……33
5. 事業目標5 新たな展示空間の創設……36

A photograph showing a light-colored wooden table with a small, dark, cylindrical container on top. The container has a colorful, abstract design. In the foreground, the back of an orange upholstered chair with a dark metal frame is visible. The background is slightly blurred, showing other chairs and a floral patterned surface.

第1章 リニューアル基本構想・基本計画の背景

常設展示「常盤平団地展示内観」

1 松戸市立博物館設置の目的・基本的性格

● 設置の目的

平成4年9月24日制定の「松戸市立博物館条例」第2条に、「本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。」と明記されていますが、その理念の淵源は、昭和58年8月31日付け「松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想調査会答申」まで遡ります。

博物館（当時は郷土資料館と呼称）を設置する目的は、以下のように明確に示されています。

松戸市は、長期構想を策定し、21世紀を展望した都市像として、『自然との調和』『人間尊重』を基調とし、市民連帯の下に心のふれあう豊かな都市を目指しています。市民が、国際的視野に立ち、将来を展望しつつ、自らのまちに限りない愛着と誇りをもち、自ら郷土の歴史をふまえ、文化的な生活都市への転換を図るためには、市民の活力と行政の条件整備が一体となった創造的活動が必要です。文化活動は市民の一人ひとりが個性を伸ばし、創造性を培い、自己の向上を図る自発的な行為です。本市においても、その活動は年々活発に行われ、市民はより充実した活動の機会を強く求めています。これらの機運に応えるとともに、豊かな情操と郷土愛を培う文化を未来社会へ継承する使命を果たすため造形美術部門、郷土資料部門、文書部門の機能を有する各文化施設が必要です。

● 基本的性格

左記の「設置の目的」から導き出される博物館の「基本的性格」は、以下のよう

ように集約されています。

市民生活に密着した親しみやすい
特色ある郷土資料館とする。

郷土の過去の姿を正しく理解し、
未来を展望するために、松戸市域
を中心とする原始・古代から現代に
至るまでの歴史を概観することが
できる場とする。

人類史的視野にたって、松戸を
中心とする地域の風土の中で
生きた先人の生活と文化を
明らかにしてゆく。

縄文時代を中心とする考古資料を
もとに、原始社会の生活文化が
どのように展開したかを
明らかにする。

教育普及活動を重視し、
生涯教育の一環として、
市民が気軽に積極的に参加できる
自己学習と交流の場とする。

松戸市に関する考古・歴史・民俗
資料の保存に努める。

収集・保存・展示・教育普及活動等
をよりよいものにするため、
調査・研究活動を重視する。

これらの「設置の目的」と「基本的性格」は今後も松戸市立博物館の上位の目
的として堅持し、本計画書も両者を踏まえた計画としています。

2 松戸市の歴史的・文化的特徴

土器・石器が重要文化財に指定された幸田貝塚をはじめ、貝の花、子和清水など全国的にも著名な 140 か所を超える縄文時代の遺跡、戦国時代に下総国西部の政治拠点となった巨大な小金城とそれに次ぐ規模の根木内城の 2 城が公園として保存されていること、江戸時代に将軍隣席で 4 度行われた大規模な小金原御鹿狩、現代日本人の住居環境の原型となった常盤平団地、上本郷・大橋・和名ヶ谷で着実に継承されている三匹獅子舞など、市民の誇りと言い得る歴史・文化に恵まれています。



幸田貝塚土器・石器などの重要文化財



小金城と根木内城



小金原御鹿狩



上本郷・大橋・和名ヶ谷 三匹獅子舞



常盤平団地



3 松戸市立博物館の現状と課題

計画策定にあたり、まず6つの視点から現状と課題を分析し、整理しました。

(1)立地

【現状】

- 市内最大の谷津と周辺台地の自然を取り込んだ広大な都市公園、21世紀の森と広場の一角に立地し、博物館はその入口の一つでもあります。公園利用者が博物館利用者に転じる事例も見受けられます。
- 地理的な意味で市の中心域に位置するため、市内のどこからでもアクセスは容易な方です。また東京に隣接する上、近年は大型商業施設の設置に伴ってバス路線が敷設されたことで、市外からの訪問ルートも拡充してきました。

【課題】

- 21世紀の森と広場や森のホール21利用者でも、博物館での良質な学習機会に触れられる仕掛けを施すなど、三施設の連携を真に価値あるものにしていくことです。
- 博物館へのアクセスに利便性を感じられない利用者層が、納得できるような手段を講じることです。

(2)施設

【現状】

- 展示室の面積やスタジオ・燻蒸庫の完備、分野別の収蔵庫、多目的トイレや車椅子に対応したスロープなど、市立施設として国内有数の規模と内容を持ちます。
- 永年の資料収集の結果、収蔵庫は飽和状態です。

【課題】

- 開館 28 年を経過し、昨今のインクルーシブデザインの見地からの改善すべき箇所の確認を含め、施設全体に計画的な修繕が求められます。
- 新たな資料収蔵空間を模索する必要があります。

(3)運営

【現状】

- 直営施設として、市民をはじめ、各地の資料所蔵者や関係者と恒久的な関係を維持し得ており、資料調査や展示時の借用なども円滑に進めることができます。
- 歴史・考古・民俗 3 分野の学芸員が、専門的な研究を深め、展示会、講演会・講座、『紀要』等での論文執筆などを通じて成果を公表しています。また開館以来、実績豊富な研究者が順次館長職に就くことで、学芸員を直接指揮し、専門性を担保しています。

【課題】

- 豊富な館蔵資料群のみならず、市内外の諸資料にも及ぶ学術的な情報蓄積を経営資源と見なして種々の加工を施し、市民の多様なニーズに応えることです。
- 松戸市の文化事業や文化政策など館外での活動で、学芸員の専門性をより効果的に活用することです。

(4)館蔵資料

【現状】

- 松戸市立博物館ならでは、「松戸ブランド」とも呼ぶべき館蔵資料に恵まれています。
 - ① 重要文化財の幸田遺跡出土資料を含む膨大な縄文資料
 - ② 戦国時代の東葛地域の主、小金城主高城氏関連の古文書
 - ③ 徳川将軍の御鹿狩関係の絵画
 - ④ 2,000 点余を数える日本各地の郷土玩具
 - ⑤ 希少な虚無僧の寺、一月寺関係資料
 - ⑥ 住環境改善の国家プロジェクトの端緒、常盤平団地にかかわる生活資料
 - ⑦ 300 点を超えるシルクロード・ガンダーラ関係資料

【課題】

- これら資料に新たな歴史的・文化的価値を見出し、公開および情報発信してゆく手立てが求められます。
- 貴重で膨大な資料群を効果的に展示し続けるために、現状とは異なる可変的な展示空間などの工夫を施した展示室のリニューアルが求められます。

(5)利用者

【現状】

- 市内外の小学校とデイサービスの利用が定着をみており、近年は子育て世代が増加傾向にあります。
- 利用者比率のおおよそは市内:市外で 6:4 です。

【課題】

- 子育て世代を一層確実に呼び込むために、ターゲットを絞った展示リニューアルと多彩なプログラム設計や、他方中高生・大学生の単独利用の促進など、多面的な対処が考えられます。
- ICTの活用を初め、市内・県の内外・国外といった範囲を意識したり、年齢層を意識した情報発信など、細やかな対応が考えられます。

(6)外部との連携

【現状】

- 21世紀の森と広場・森のホール 21 に県立西部図書館と周囲の文化的環境に恵まれており、前二者との連携事業も立ち上げました。
- 博物館友の会と複数事業で協働しています。また市内の学校とは博物館アワード・出前講座・小学生向けの博学連携展示などに加え、新たな連携を模索しています。

【課題】

- 戸定歴史館ほか市内の文化・観光にかかわる部署との連携を深め、市内の文化資源全般へのアクセシビリティを強化することです。
- 現時点での実績を、施設の認知度の向上や集客へと結実させていくこと、また児童生徒から市内の諸団体に至るまで、育成や支援を進めていくことです。

4. 国・世界の動向

- 日本における博物館の動向

わが国の方針は、「地方自治法」改正に伴う一部公立博物館への指定管理者制度の導入（平成 15 年度）、「教育基本法」改正（同 18 年度）、「社会教育法」・「博物館法」の改正（同 20 年度）、そして「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の告示（同 23 年度）と、21 世紀に入って博物館関連法規は急速に変化しました。趨勢としては、博物館の諸事業の評価と運営の在り方が問われるとともに、職員の専門性の向上が求められています。

また、「地域の文化を発信する核」「新たな文化創出につながる拠点」「社会教育の振興」「文化振興」「文化クラスター」としての役割を担うこと、さらに「文化観光拠点施設」として文化芸術基本法が制定（同 13 年度）されるなど、博物館の新たな可能性について期待が持たれているところです。

- 世界における博物館の動向

世界の動向としては、令和元年（2019 年）に開催された ICOM（国際博物館会議）京都大会では、「Museums as Cultural Hubs（文化をつなぐミュージアム）」のテーマのもと、様々な文化の繋ぎ役として「博物館」の可能性が提示され、世界規模で博物館の役割や存在意義が問い直されています。

第2章 リニューアル基本構想・基本計画の策定方針

主題展示室「虚無僧寺一月寺」

1. 策定の経緯

経緯	
平成5年4月29日	開館
平成24年6月	松戸市立博物館協議会からの意見を受け、博物館内リニューアル研究会発足
平成27年7月	今後の主要なターゲットを子育て世代・家族連れに設定し研究を継続
平成28年2月	展示計画(案)について、博物館内部でワークショップを行い、展示計画素案を作成
平成29年3月	研究会にて「(仮称)こども歴史博物館」として展示計画について議論開始
平成29年6月	松戸市立博物館協議会にて、こども向け展示構想について議論
平成29年10月	松戸市立博物館協議会に博物館リニューアル展示構想について諮問
平成31年3月	松戸市立博物館協議会から「(仮称)こども歴史博物館」について答申を受ける
令和元年7月	企画展「こどもミュージアム」の開催と成果の検証
令和元年8月	松戸市立博物館協議会にて、博物館リニューアル基本構想・基本計画について協議を開始

開館19年目に当たる平成24年度、正式に動き出した展示リニューアルの検討作業は、ほどなく子育て世代向けサービスに先鞭をつけることに決して、調査・研究が続けられた結果、平成30年度には博物館協議会から「(仮称)こども

も歴史博物館（本計画におけるこども歴史体験ゾーン）」の答申を得ました。

その成果を享け、翌令和元年度には、展示に止まらない博物館全体のリニューアル基本構想・基本計画の協議が開始されるに至りました。

2. 策定の方針

第1章から前頁までの多面的な考察と状況分析を踏まえて、当館の「方針」を次のように定めます。



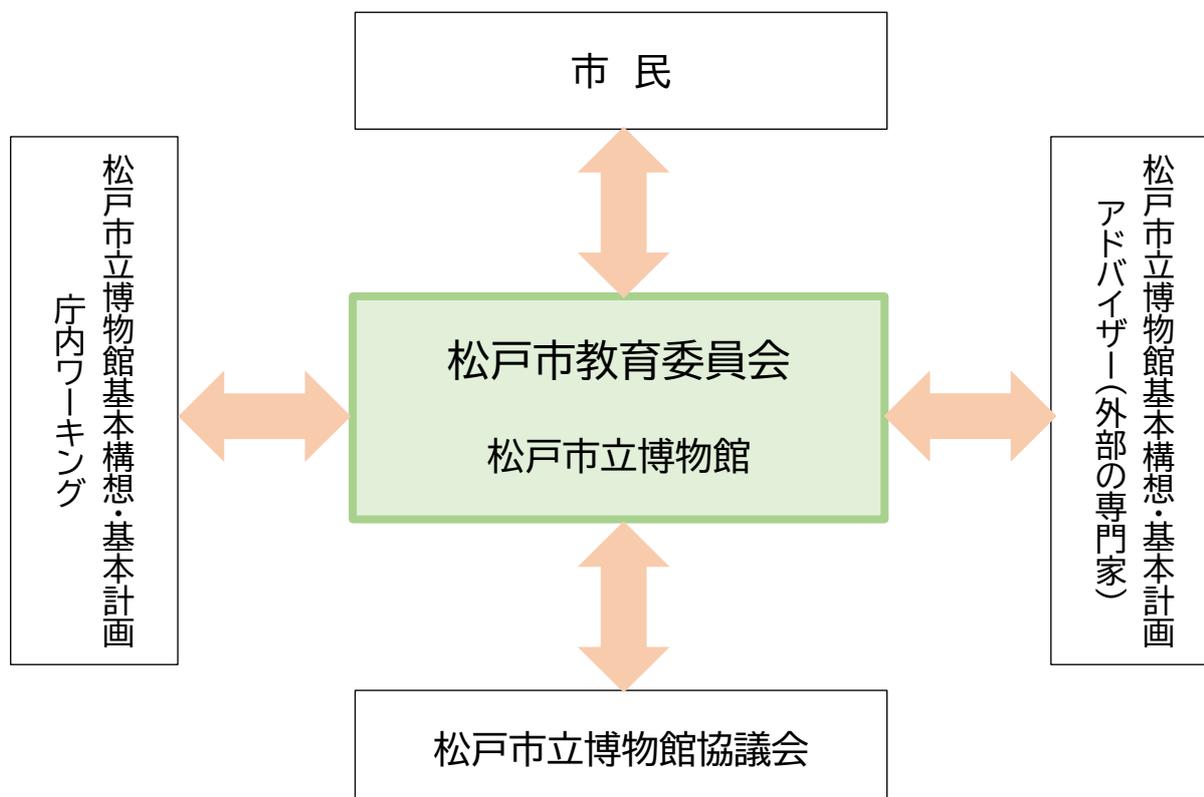
策定の方針

松戸市立博物館は、これまでの機能・役割を見直し、より高度な資料の保存と活用を通して、多くの分野、地域、人と人、過去から未来への繋ぎ役として新たな文化施設へと進化することを目的に、「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」を策定します。

3. 策定の体制

本計画を策定するにあたり、文化観光国際課、子どもわかもの課、21世紀の森と広場、生涯学習推進課、社会教育課、指導課の6課で構成した庁内ワーキンググループを設置し、さらに外部の専門家を計画アドバイザーとして招聘しました。

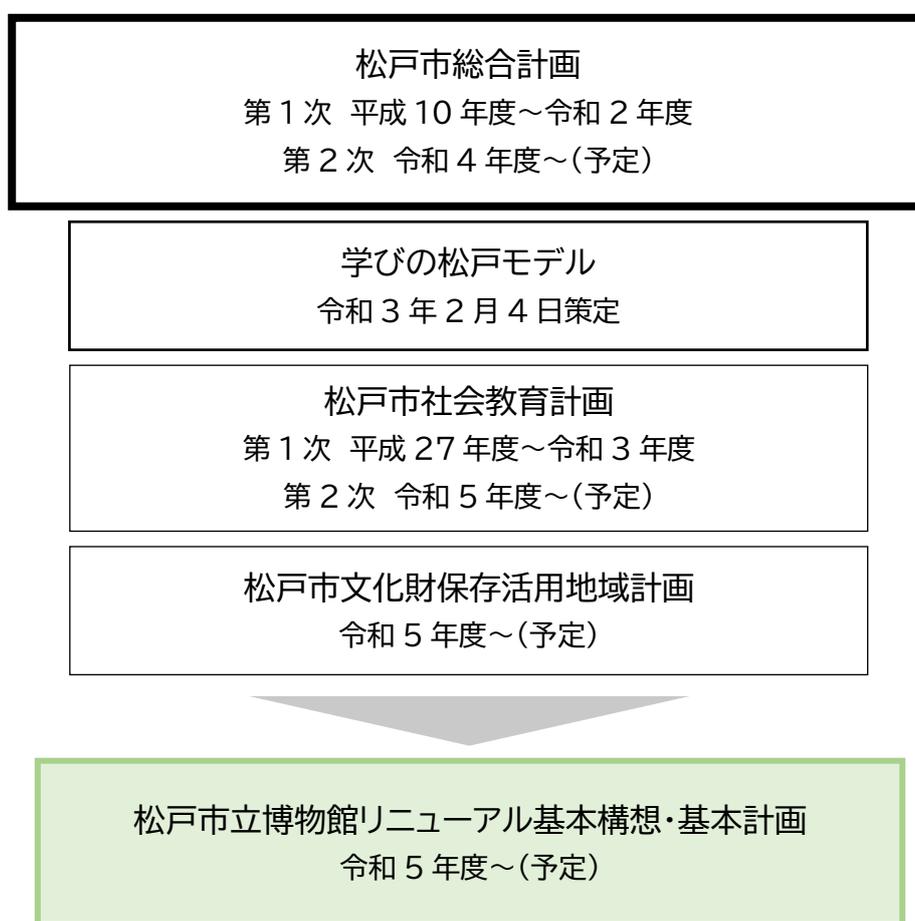
そして、幅広く市民からも意見などをいただき、まとまった計画案を市民・学識経験者・関係団体からの推薦者からなる松戸市立博物館協議会に提示し、意見交換を行いながら、計画策定を進めました。



4. 上位計画と計画期間

本計画は「松戸市総合計画」をはじめ、本市教育行政の指針となる「学びの松戸モデル」を上位計画とした個別計画であり、市民に地域の歴史・文化を通じて生涯学習を推進していきます。さらに、教育関連の個別計画である「松戸市社会教育計画」及び「松戸市文化財保存活用地域計画」と連携を図り、目指す博物館を実現するため、目標達成に向け取り組んでいきます。

以上により、本計画期間を令和5年4月1日から令和15年3月31日の10年間の中長期計画として実施していきます。



5. 評価

本計画は、松戸市立博物館協議会において、計画の進捗管理や評価を行います。その結果は市ホームページ等を通じて、逐次市民に公表します。



第3章 リニューアル基本構想（使命と事業目標）

常設展示「松戸の河岸復原模型」

1. 使命／ミッション

第 1 章・第 2 章を経て到達した認識を、松戸市立博物館の使命とそれを実現するための目標として整理し直します。

松戸市立博物館は、3 つの社会的な役割を果たすために活動します。

使命／ミッション

- ◎ 松戸市立博物館は、松戸の 3 万年の歴史と文化を研究し、その
「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。
- ◎ 多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、
「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。
- ◎ 未来を担う子どもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し**「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場**をめざします。

2. 5つの事業目標

3つの使命を達成するために5つの事業目標を掲げ、取り組みます。

事業目標-1 エリア戦略	広域的な文化交流拠点の形成
松戸市立博物館は、千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、 周辺施設との連携を強化し、 市民のための文化交流拠点をづくりあげます。	
事業目標-2 広報戦略	松戸ブランドの価値創出
これまで蓄積してきた研究成果や貴重な文化財など 松戸市立博物館の価値を強力にアピールし、 博物館の認知度アップをめざします。	
事業目標-3 ターゲット戦略	新しいファン層の獲得
松戸市立博物館は、家族で楽しめ集える博物館をめざし、 新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛りあげていく 仲間づくりを推し進めます。	
事業目標-4 施設戦略	施設の長寿命化
多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、 今後も持続可能な博物館活動を展開できるよう 施設・設備の長寿命化を図ります。	
事業目標-5 展示戦略	新たな展示空間の創設
子どもも大人も松戸の歴史と文化を楽しく学ぶことができる 「こども歴史体験ゾーン」を整備します。 また、常設展示室全体の充実も図ります。	

これら 3 つの使命と 5 つの目標を以て、松戸市立博物館をリニューアルするに当たっての基本構想とします。

次章では、5 つの目標をさらに弁別し、具体的な提案を加えることで、「松戸市立博物館リニューアル基本計画」に位置付けます。

第4章 リニューアル基本計画（方針と取組）



常設展示「常盤平団地展示外観」



事業目標4 施設戦略

施設の長寿命化

方針(1)
インクルーシブデザインの導入

方針(2)
施設の老朽化対策の推進

方針(3)
アクセスの改善

事業目標5 展示戦略

新たな展示空間の創設

方針(1)
こども歴史体験ゾーンの整備

方針(2)
新しい発見や学びのための可変的な展示

方針(3)
ニーズに対応した展示空間

事業目標 1 広域的な文化交流拠点の形成

松戸市立博物館は、千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、周辺施設との連携を強化し、市民のための文化交流拠点をつくりあげます。

方針(1) 千駄堀地区文化交流拠点としての位置付け

21世紀の森と広場、森のホール21と連携し、文化交流拠点の一角として恵まれた自然環境の中で「音楽・芸術」「自然」「歴史・文化」を味わえるコンテンツやイベントを企画、良質な文化を提供し、集客力アップを目指します。

〈具体的な取組〉

① 1日中楽しめる空間創出

誰もがみんな一日中楽しみながら、音楽・芸術、自然、歴史・文化を満喫して過ごせるような、各施設を連関させる体制の整備を強化し、恒常的な施設の相互利用の活性化と認知度を向上させます。

21世紀の森と広場 **M** 森の中で自然と **1**

森のホール21 **O** 音楽、演劇と **5**

松戸市立博物館 **R** 歴史と文化を **7**

一日中、楽しめる **I** **11**

文化のMORIパンフレット (令和2年度)

10:00 スタート！ **01**
21世紀の森と広場
中央口から入場！先と風の広場を散策！とても広くて気持ちの良い空間です！自由に好きなように過ごせる広場。

11:00 千駄堀池の周り **02**
お散歩！自然観察会やバードウォッチング！池をぼんやり眺めてのんびり。

12:00 21世紀の森と広場 **03**
内のカフェラス or 森の家 or 持参したお弁当でピクニックランチ！

13:00 多くの葉、つどい **04**
の広場を散策！のどかな田舎風景を眺めながら、お散歩、季節ごとの花が咲き、秋にはイロハモミジが真っ赤に染まります。

15:00 博物館を鑑賞 **05**
松戸3万年の歴史を体験！内部から外観まで忠実に再現した常盤平岡池の湧き水も必見です！企画展、美術展も魅力満載！

17:00 森のホール21 **06**
夜明けのライブを予約。ゆったりとした気持ちの良いシートで鑑賞。迫力ある音響で感動すること間違いなし！

② 市内外からの集客

多岐に亘る連携イベントを企画し、市内・外からの集客と新規利用者を獲得します。



方針(2) 観光拠点としての情報発信

戸定歴史館や市内文化施設などと連携を深め、文化財を通じて松戸の歴史を知る・探る「観光ルート」や「歴史の道」などの情報を発信します。

〈具体的な取組〉

① 文化財へのアクセシビリティ強化

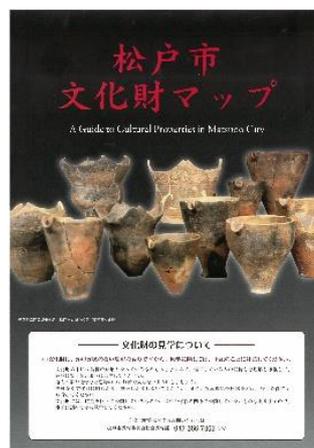
博物館の展示のみで完結するのではなく、常設展示や各種展覧会の見学をきっかけとし、そこから利用者がさらに歴史・文化への興味・関心を高め、市内の史跡等を散策したりできるよう、文化財へのアクセシビリティを強化します。

② まつどの歴史・文化の観光ルート

観光スポットとして「観光ルート」「歴史の道」の散策を推奨し、歴史・文化を体感する楽しさを多角的な視点から市内外に発信します。同時に、郷土の歴史・文化に魅力を感じ、誇りが持てるように市全体のなかで連携を強化します。

③ 松戸市戸定歴史館との連携

連携展示や市内文化施設各種イベント等を多く企画し、歴史・文化を通してつなげる街の魅力を発信します。



松戸市文化財マップ

方針(3) 県西部の中核館としての位置づけ

市外の博物館などとも連携し、県西部の中核館として歴史・文化の更なる普及・発展を目指します。

〈具体的な取組〉

① 歴史・文化の拠点

東京に隣接する好立地に加え、周辺博物館と比較しても、充実した規模・内容を誇る当館の長所を活かし、歴史・文化に関する情報発信の拠点としての事業を展開します。

② つなぐ博物館

人類史的な視野による調査研究を行ない、その成果を基礎とした企画展等の展覧会、普及活動を展開することにより、松戸を広い視野からとらえなおし、各地域をつなぐとともに、さらには人類の過去・現在・未来をも結びつける視点とその意義を発信します。



事業目標 2 松戸ブランドの価値創出

これまで蓄積してきた研究成果や貴重な文化財など松戸市立博物館の価値を強かにアピールし、博物館の認知度アップをめざします。

方針(1) 所蔵文化財の価値の発信

県西部唯一の縄文重要文化財「千葉県幸田貝塚出土品」をはじめ、数十万点にも及ぶ市の貴重な所蔵文化財の調査研究を深め、魅力を発信することで、「松戸ブランド」として誇りと親しみがもてる多角的な活動を展開します。また前提として必要な資料の調査・研究を拡充します。

〈具体的な取組〉

- ① 展示やイベントにより興味を持って観覧・参加できるよう、広報から展示・解説手法に至るまで、全般を逐次総括・反省しながら拡充・改変することで発信力を強化します。
- ② 博物館活動の根幹である資料の調査・研究の在り方について、短期的業務と中長期的業務を弁別・整理して館内で情報共有する等の見直しを行い、効率化と集中化を図ります。
- ③ 資料の保存と活用のバランスを正確に認識しながら、調査・展示・燻蒸・貸し出し等、一連の事業を実施します。

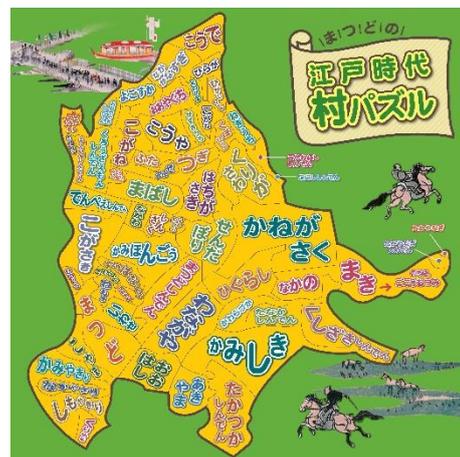


方針(2) ICTによる文化財情報の整理・発信

「松戸3万年の歴史」の見どころや最新の研究成果をICT（ホームページ・SNSなどのコミュニケーションツール）活用をはじめ、様々な方法で発信し、市民と交流していきます。

〈具体的な取組〉

- ① 展示解説動画、SNSの発信、オンライン蔵書検索、デジタルミュージアムの開設、常設展示室360°VRコンテンツなどの事業を行い、ネットワークを活用した松戸市立博物館の情報発信を行います。
- ② アイテムや表現方法に工夫を加えながら、更なる利便性とわかりやすさ、楽しさの充実を図り、ネットワーク環境を活用した取り組みを行います。



おうちミュージアム「江戸時代村パズル」

事業目標 3 新しいファン層の獲得

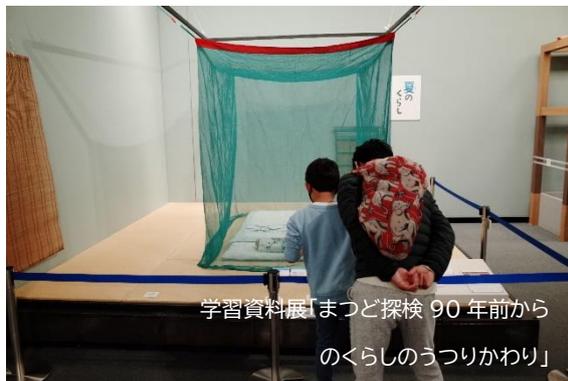
松戸市立博物館は、家族で楽しめ集える博物館をめざし、新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛り上げていく仲間づくりを推し進めます。

方針(1) 子育て世代の博物館の利用支援

子育て世代の博物館デビューや家族による利用を積極的に支援し、憩いの場として楽しく利用できる環境を提供します。

〈具体的な取組〉

- ① 家族で気軽に利用できるプログラムやイベントを常時開催します。
- ② 常設展示の子ども向けワークシートで、歴史を学習していない子供にも、松戸の歴史を楽しみながら学べる機会を提供します。



松戸市立博物館 公式キャラクター
じょうちゃん・もんちゃん



方針(2) 地域とつながる、市内地域の歴史的文化の発信

縄文遺跡、御鹿狩、常盤平団地、小金城・根木内城、獅子舞をはじめ、市内各地域の歴史文化を通じて松戸市立博物館友の会などの諸団体と繋がることで「交流」を形成し、更に郷土への理解と愛着が深まる仕組みを作ります。

〈具体的な取組〉

- ① 市内のさまざまな団体と連携して共催事業等を実施するだけでなく、活動を支援できるよう助言・協力します。
- ② 地域活動団体や町会・自治会の学習活動の取り組みをつなぎ、博物館を核とした連携が深まる仕組みを作ります。



方針(3) 学校教育施設などとの連携強化

学校（小・中・高校・大学・専門学校等）との連携を強化し、教員・生徒へのアウトリーチ活動を展開します。また、NPO や企業などと連携し、家族で楽しいワークショップ、グッズなどを企画開発し、歴史・文化の魅力を発信します。

〈具体的な取組〉

- ① 松戸市内各地域の特徴ある歴史や文化を児童が学習できるよう、小中学校と連携したカリキュラム作りを進めます。また、出前授業などのアウトリーチ活動へ活かします。
- ② 聖徳大学児童学部との連携を進め、それぞれの学習課題を習得し、館内外の事業に反映させます。
- ③ 小中学校だけでなく、高校・大学との連携によりこれまで進めてきた博学連携プログラムを強化します。



事業目標 4 施設の長寿命化

多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、今後も持続可能な博物館活動を展開できるよう施設・設備の長寿命化を図ります。

方針(1) インクルーシブデザインの導入

外国人、障害者、高齢者など、誰もが安心・安全で、平等に利用できるインクルーシブデザインの施設を目指します。

〈具体的な取組〉

性・国籍・年齢・障害の有無などに係わらず、誰もがストレスなく立ち寄り、展示を観覧し、事業に参加できる空間を構成します。



方針(2) 施設の老朽化対策の推進

震災・火災・水害等の脅威にも耐えられるよう、文化財の展示・所蔵環境を見直します。さらに文化財を未来に受け継ぐための施設整備・改修を計画的に進め、長寿命化に対応します。

〈具体的な取組〉

① 老朽化施設改修

博物館は開館後 28 年以上経過し、年数とともに建物の老朽化が進行しており、安全面、機能面で様々な不具合が発生しています。今後、施設老朽化の進行状況に応じて、建築、電気、給排水、空調設備などの修繕工事を行います。また、地震、水害などの災害時に備えた建物の機能強化を図ります。

② 文化財資料の適切な管理

国の重要文化財など貴重な歴史資料を保管している重要な機能を担う収蔵庫の適正な保管環境の整備を図ります。



方針(3) アクセスの改善

利用者のアクセス改善として、駐車場環境の整備を目指します。

〈具体的な取組〉

- ① 利用者の利便性向上のため、21世紀の森と広場駐車場の有効活用など駐車場環境の整備を図っていきます。
- ② 主要駅（八柱駅、新八柱駅、新松戸駅）から博物館までの適切な誘導の看板や案内板の充実を図ります。

事業目標 5 新たな展示空間の創設

子どもも大人も楽しく、松戸の歴史と文化を学ぶことができる「こども歴史体験ゾーン（旧こども歴史博物館）」を整備します。また、常設展示室全体の充実も図ります。

方針(1) こども歴史体験ゾーンの整備

見て触って楽しみながら松戸の歴史・文化の深さを知ることができる「こども歴史体験ゾーン」を整備し、こども、家族で日常的に利用できる学習の場を提供します。

〈具体的な取組〉

① 5つの柱に基づき、こども歴史体験ゾーンを整備します。

(1) 博物館と最初に出会う場所

(2) 家族で一緒に楽しめる体験プログラムの提案

(3) こどもたちの自主性を重視する歴史体験

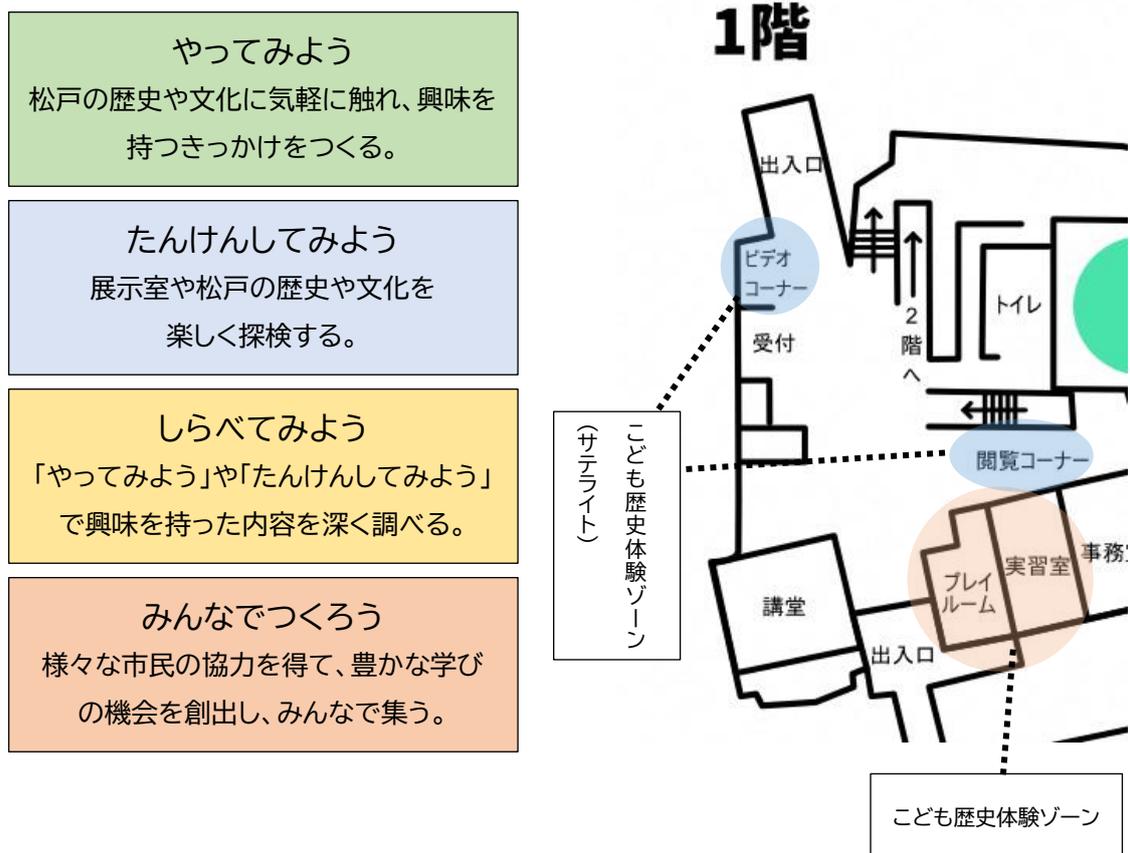
(4) 公園にある博物館の特性を活かした活動

(5) 人々の交流が生まれる広場

② 4つの展示部門で構成します。

「こども歴史体験ゾーン」は、「やってみよう」「たんけんしてみよう」「しらべてみよう」「みんなで作ろう」の4つで構成され、各展示部門には松戸の歴史や文化にアプローチする多彩なプログラムを用意して、常に新たな歴史体験ができます。

この4つの展示部門は連関性を持ち、こどもたちが自らの興味に応じて自発的で主体的な学びを深められるプログラムの開発を目指します。



詳細は、別冊を参照ください。

方針(2) 新しい発見や学びのための可変的な展示

可変的展示空間を創設し、来るたびに新しい発見や学びを深めることができる展示を提供します。

〈具体的な取組〉

- ① 常設展示を見直し、現在の主題展示室を改変し、新たに可変性をもつ展示空間を創設します。新しく収集した資料の即時的な公開、研究成果をもとにした新しい情報の発信、特定の展覧会テーマに合わせた収集資料等の紹介などの展示を展開します。
- ② 総合展示室内にも可変性をもつ展示ケース等を増設し、通史展示における各時代の新たな研究成果の発信や、関連する収集資料を公開し、また、定期的な入れ替えなどを行ないます。



方針(3) ニーズに対応した展示空間

わかりやすい解説から深い学びまでそれぞれの利用者に対応でき、誰もが快適に過ごせる常設展示へ整備します。

〈具体的な取組〉

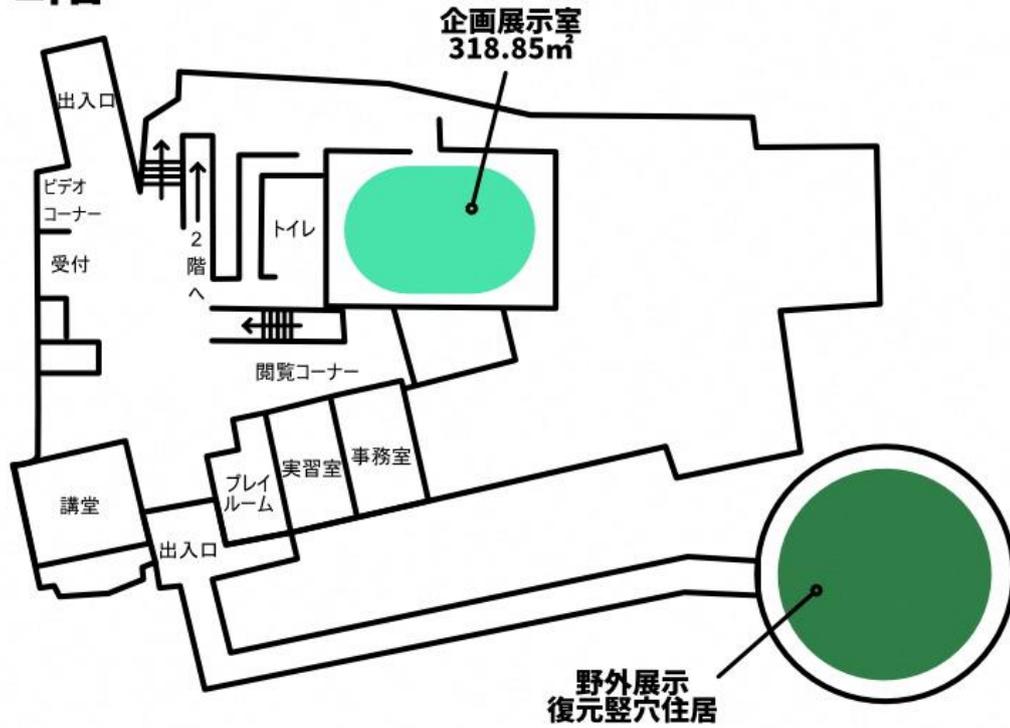
① 常設展示全体

- ・ 展示室の照明を明るくし、展示資料や模型をよく観察できるようにします。
- ・ 車いす利用者が見やすいように、展示台ケースの形状を工夫します。
- ・ 展示資料や模型について、詳しい情報・解説やイラスト・写真等を用いたわかりやすい説明を付け加えます。展示室内で QR コード等を用いた情報発信を行ない、見学者の興味・関心に応じて学びを深められるような工夫を凝らします。

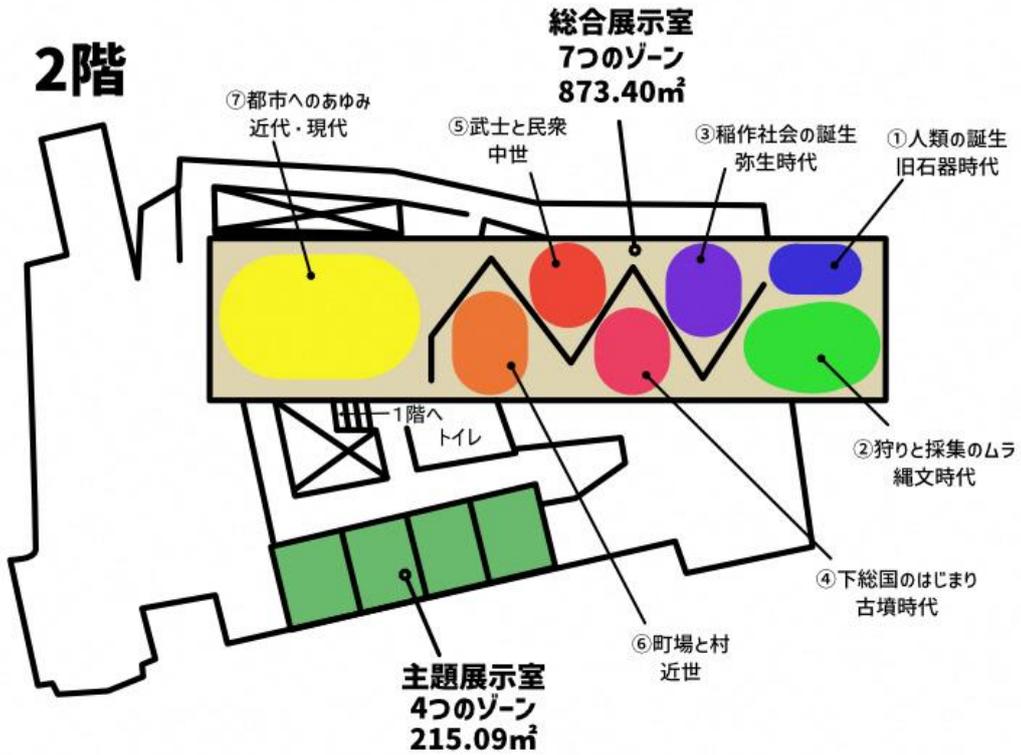


展示室の現状

1階



2階



② 総合展示・各ゾーンに関すること

I. 【人類の誕生／狩りと採集のムラ】〔旧石器・縄文時代〕

- ・ SDGs を意識し、従来にも増して自然と人間との関わりを重視し、環境変動に適応するなかで、人々の生活がどのように変化してきたか、出土資料とともにわかりやすく展示します。
- ・ 縄文海進期の生活実態が分かる好例として、幸田貝塚出土品を展示します。
- ・ 現在のジオラマ「縄文の森」は年代観、内容を見直した上で存続させ、出土資料と有機的に関連付けた説明の装置として活用します。
- ・ なぜ当時の環境や生活がわかるのか、その根拠となる分析結果や研究成果をわかりやすく明示し、見学者の理解を深めます。

II. 【稲作社会の誕生／下総国のはじまり】〔弥生時代・古墳時代・古代〕

- ・ 新たな調査資料の増加、研究成果の蓄積を受け、展示内容や解説の不足箇所について、可変性をもつケースを設置・利用し、収蔵資料及び調査研究の成果を反映させた展示を展開します。日本列島で古墳が築かれ始めた頃、松戸ではどのような墓が築かれていたのか、市内検出の方形周溝墓関連資料や、行人台遺跡から出土した渡来人との関わりがうかがえる資料、古墳から出土した埴輪などを随時、入れ替えながら展示します。
- ・ 「河原塚1号墳の埋葬施設復元模型」に対応させて、新たに人骨検出状況の写真を展示し、実際に検出された被葬者と副葬品の状況と比較しながら模型が見学でき、見学者の興味・関心を惹くよう改善します。
- ・ 展示中の小野遺跡から出土した銚帯金具（役人が身につけたとされるベルトの飾り）は飾り金具のみの展示であるため、新たにベルト全体が分かる復元模型を製作・展示し、見学者が理解しやすいようにします。
- ・ 各展示資料が実際に、どのように使われたかがわかるようなイラスト、発見された遺跡の位置や遺跡の発掘調査写真などの追加情報をオンデマンド（QRコードなど）で閲覧できるようにします。

III. 【武士と民衆】〔中世〕

(ア) 根木内城跡の展示を新設

開館後に発掘調査が行われ、出土資料に加えて城の規模や役割についての新知見が加わりました。また歴史公園としては県内指折りの良好な保存状態にある根木内城の展示を追加することで、市域の戦国時代理解の増進を図り、同時に身近な文化財への意識を高めます。

(イ) 高城氏関連古文書コーナーの増設

近年購入し、市指定文化財にも指定された西原文書、さらに高城氏直系御子孫からの古文書も寄贈されたことで、博物館の中世資料は俄かに増大しました。これらの積極的な活用と保存の両立を図るため、良質なレプリカを作成して常時展示できるようにします。

IV. 【町場と村】（近世）

（ア） 近世の村

松戸市域の50をこえる村々の江戸時代の名前が現在の町名のもとになったこと、陸上・河川交通を通じて、松戸が100万人都市の江戸と密接にむすびついていたことなど、現代と江戸時代の連続性を重視した展示内容とすることで歴史を身近に感じてもらえるようにします。

（イ） 小金牧と御鹿狩に関する展示

小金原御鹿狩は、いまの松戸市域にあった小金牧（中野牧）の周辺の野原で行われました。今では完全に失われた牧の景観や、そこで育成されていた日本在来馬の展示を盛り込み、4回行われた徳川将軍の御鹿狩の概要を振り返り、様々な御鹿狩関連資料を展示します。

V. 【都市へのあゆみ】〔近代・現代〕

(ア) 下谷・谷津・台

- ・ 照明を明るくし、模型をよく観察できるようにします。
- ・ 現状の「下谷・谷津・台」の配置について、「常盤平団地の誕生」の動線と整合性を持たせるとともに、3つの模型が比較できるように変更します。
- ・ 「下谷・谷津・台」の各集落の生活を表す写真、イラストなどの情報も発信します。
- ・ 可変性を持つ展示室で、各集落の生活資料を実物展示できるようにします。

(イ) 常盤平団地

- ・ 新たに60年に及ぶ生活の営み全体を反映した展示とします。
- ・ 電動車椅子にも対応できるリフター（昇降機）に改良します。

VI. 【当館所蔵シルクロード関係コレクションの展示】

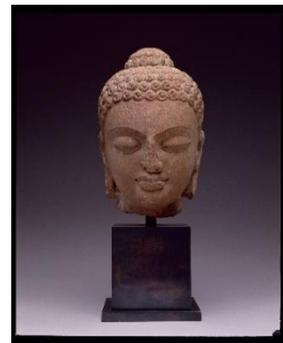
- ・ 松戸市では 1980 年頃、シルクロード美術を展示する美術館が計画された際に収集されたコレクションの他、2020 年には新たに寄贈された奥井俊美氏のコレクションが加わりました。
- ・ ガンダーラ仏やイスラーム陶器をはじめとする 400 点近いシルクロード関係コレクションを所蔵する公立の博物館・美術館は全国でもわずかです。これらの貴重な美術的・学術的価値が高い資料を、新たに創設する常設展示の可変的な展示室を利用し、計画的に公開します。
- ・ 同時に、調査研究を進め、これらのコレクションの価値や意義を追究し、広く人類史的な視野から発信に努めます。



菩薩半跏像(写真:小川忠博)



浮彫「四天王捧鉢」(写真:小川忠博)



仏頭(写真:小川忠博)



把手付壺



青緑釉下型押把手付水差



白釉上エナメル彩植物・抽象文鉢

用語解説

- 文化財 (P19、P26、P28、P29、P34、P43)

文化活動により生み出され、長い間守られてきた有形・無形の財産

- 重要文化財 (P4、P7、P28、P34)

日本にある建築物・美術工芸品・考古学資料・歴史資料などの有形文化財のうち、歴史上・芸術上・学術的に価値が高いもので、文部科学大臣が指定したもの

- インクルーシブデザイン (P6、P23、P33)

できるだけ多くの人々の要素（年齢・性別・人種・障害）を理解して考え、取り入れるデザイン

- アクセシビリティ (P8、P26)

目的や情報などに対する近づきやすさ、利用しやすさのこと

- デジタルミュージアム (P29)

絵画や彫刻などの芸術作品や、歴史や民俗などさまざまな資料をデジタルデータに変換して保管し、インターネット上で様々な方に公開するコンテンツ

- アウトリーチ (P32)

博物館内だけでなく、需要に応じた対外的な活動のこと

- オンデマンド (P42)

利用者の直接的な要求に応じ、必要な情報やものを個別に提供すること

- QRコード (P39、P42)

スマートフォンなどのカメラで情報を読みとり、ホームページなどの情報に素早くアクセスすることができるもの

- 燻蒸 (P6、P28)

害虫やカビなどを殺す目的で、資料を薬剤で燻すること

- カリキュラム (P32)

教育目標を達成するための系統立った計画のこと

- 博学連携プログラム（P8、P32）

子どもたちの博物館利用方法・観覧方法などを、博物館学芸員と学校教員が互いの教育機能を活かして連携した教育活動

- 通史展示（P38）

歴史系博物館で、地域における石器時代から現代までを順番に展示したもの

- S D G s（エス・ディー・ジーズ）（P41）

2015年から2030年までに、「持続可能でよりよい世界を目指す」ために設定された17個の国際目標